平成 28 年度上士幌町議会
議員道外研修報告

平成２８年１０月２５日～２８日開催

上　士　幌　町　議　会

上士幌町議会議員道外研修行程表

■平成28年10月25日（火）～10月28日（金）
■旅行先：那須塩原市・千葉市・稲毛

	月日（曜日	行　　程	朝	昼	夕
1	10月25日 （火曜日）	JAL/570 上士幌町役場=======帯広空港――・――羽田空港（空港内で昼食）====== 7:30　9:00～10:00　11:45　12:00～12:45 貸切バス ===＜首都高・東北道＞===道の駅うつのみや・ろまんちっく村===宇都宮市 15:00～16:30　17:00	―	羽田空港	宇都宮市
2	10月26日 （水曜日）	貸切バス 宇都宮====大谷観音･大谷寺===宇都宮IC====＜東北道＞=====那須IC===== 9:00　9:30～10:10 （昼食） ===那須・森のビール園===那須町（ゆいま～る那須視察＞===那須塩原市 11:30～12:20　13:00～15:00　16:00	ホテル	黒磯市	那須塩原
3	10月27日 （木曜日）	貸切バス 那須塩原市====＜東北・北関東道＞=====つくばJCT====成田山・新勝寺== 9:00　11:00～12:45 =======千葉市稲毛区長沼町（スマートヴィレッジ稲毛視察）=====千葉市 14:00～16:30　17:00	ホテル	成田市	千葉市内
4	10月28日 （金曜日）	貸切バス 千葉市=======東金市======月の砂漠記念館=====鴨川市======木更津市=== 9:00　12:00～12:40 東京アクアライン　JAL/579 ======＜海ほたる＞======羽田空港――・――帯広空港======上士幌町役場 15:30～16:10　16:30～17:50　19:20～19:45　21:00	ホテル	鴨川市	―

記入例：――― ＪＲ　======== バス　－－・－－ 航空機　～～～～～ 船

■宿泊予定ホテル				
10月25日(火)	宇都宮市	宇都宮東武ホテルグランデ	宇都宮市本町5-12	028-627-0111
10月26日(水)	那須塩原市	ホテルルートイン西那須野	那須塩原市105-18	0287-39-6110
10月27日(木)	千葉市	三井ガーデンホテル千葉	千葉市中央区中央1丁目11-1	043-224-1131

【　平成２８年度上士幌町議会　議員道外研修報告　】

実施期間：平成２８年１０月２５日～２８日
研修地：栃木県、千葉県

月日：１０月２５日
研修地：栃木県宇都宮市「道の駅うつのみや ろまんちっく村」
研修内容：道の駅の取り組みについて

【　現　況　】　　宇都宮市は、栃木県のほぼ中央、東京から北に約１００Ｋｍの距離にあり、地勢は広大で肥沃な関東平野のほぼ北端に位置し、北関東の中枢拠点となっている。
「道の駅うつのみや ろまんちっく村」は宇都宮市の北西部の一般国道２９３号沿いに位置し、東北自動車道及び日光宇都宮道路のＩＣ、一般国道１１９号（日光街道）からのアクセスが良好であるとともに、北関東自動車道の全線開通により、県内外からのアクセス利便性の良い場所で、施設近隣には、大谷石の採掘で知られる大谷地区があり、大谷観音や資料館等の施設や、多気不動尊を有し古くは山城としての歴史を持つ多気山をはじめとする「大谷七名山」などの観光資源があるほか、周辺は田園風景が広がり、地域特産の新里ねぎや米・りんご等の農産物の生産が盛んな地域である。
　また、道の駅には温泉や温水プール（クア施設）、宿泊施設を有し、市民の余暇の充実や健康増進のための施設であるとともに、市内北西部の観光及び都市と農村の交流拠点としての役割を担っている。
　年間の入込利用者数は約１５０万人、売り上げは施設全体で年１８億円ほどということで、施設の管理運営は、指定管理者として「株式会社　ファーマーズ・フォレスト」が行っている。同社は、平成１９年７月に資本金８，０００万円で設立され、道の駅の管理運営はもとより食と農業を通じた地域プロデュース・食農支援事業、農産物や地域特産品の総合流通事業、着地型旅行・ツーリズム事業、宇都宮クラフトビールの醸造販売事業などを幅広く展開し、約２２０名の従業員を雇用しており、地域の大きな雇用の場となっている。

１　施設概要
（１）開　　設　　平成８年９月１４日（市制１００周年記念事業）
（２）施設内容　　総面積　　４６ha
　【主な施設】温泉館、フラワードーム、地ビールレストラン、ふるさと味の広場、宇都宮物産館、四季の森、クラインガルテン、体験センター、広場、駐車場
（３）休 園 日　　毎月第２火曜日（祝日の場合は翌日）
（４）利用時間　　あおぞら館　午前８時３０分～午後６時
　　レストラン施設　午前１０時～午後６時（一部午後９時）
　　温泉館　午前１０時～午後９時

２　建設経費

当初整備費　１４８億７，２００万円

財源内訳　（単位：千円）

国県補助金※	３，６１７，０００
地方債	２，７９４，０００
100周年記念事業基金	１，６５２，０００
一般財源	６，８０９，０００

※国庫補助金の内訳（県補助金除く）

（農林水産省補助事業）

・農業農村活性化農業構造改善事業　３，０４３，０００千円

・地域農業基盤確立農業構造改善事業　５６０，０００千円

３　道の駅登録の経緯

（１）申　請　平成２３年１２月１６日

（２）申請者　宇都宮市

（３）登録日　平成２４年３月２６日

（４）供用開始　平成２４年９月２２日

４６ｈａの広大な敷地の入り口

４　来園者数の推移

単位：人、千円

年度	来園者	クア施設	露天風呂	宿泊施設
８	778,666	34,723	136,588	5,502
９	1,113,203	103,073	254,924	10,716
１０	1,186,325	119,551	246,749	10,554
１１	1,149,602	130,334	231,548	10,212
１２	1,031,360	113,747	210,349	9,882
１３	1,019,226	102,967	202,686	9,685
１４	1,073,385	83,712	186,914	9,523
１５	1,017,040	94,286	186,481	9,402
１６	975,742	88,324	159,790	8,928
１７	909,290	95,093	156,740	8,735
１８	885,849	98,166	153,502	8,037
１９	872,464	101,534	146,158	7,836
２０	998,539	98,643	134,271	7,009
２１	1,018,146	105,311	142,253	7,784
２２	978,144	107,086	124,873	7,586
２３	1,008,887	113,900	136,605	7,557
２４	1,110,135	122,770	145,544	8,336
２５	1,285,696	121,841	171,096	9,163
２６	1,370,200	130,641	169,232	9,467
２７	1,407,554	134,193	170,636	10,058
計	21,189,453	2,099,895	3,457,185	175,972

【　所感と本町のまちづくりへのヒント　】

・「滞在体験型ファームパーク」となっており、地場産品の購入、地場産品を活かした食の提供、遊びや体験もでき、また温泉や森林浴等、幅広い方々が楽しめる施設である。運営は株式会社なので、当然財政上面も考慮した工夫がされているが、これだけの施設を維持、管理するには、広域での利用促進も含めた経営努力が必要と感じた。

・この施設のような総合的な道の駅になると、魅力的ではあるが、建設費や維持管理費が大きくかかり厳しい。こぢんまりとしても、町の魅力を出せるもの、地場産品を活かした食の提供など、より多くの町民の声を聞く必要がある。

また、近隣町村にも道の駅が多くあり、上士幌でも必要なのかとの声もまだまだあり、町民のよりどころ、多くの町民も立ち寄る企画など、「町おこし」としての観点が最も大切であると思う。

・「ろまんちっく村」は農村公園としてのスタートで、規模・面積的には参考とし難いが、事業内容・コンセプトは本町のめざすべき方向の参考となった。

・「ろまんちっく村」は上士幌が考えているゲートウエイ型道の駅とは異なると思う。ゲートウエイ型とは、地域の観光総合窓口機能とインバウンド観光の促進、地方移住等の促進、これらの機能をもった道の駅を目指しているようだが、これだけで成り立つのか疑問である。

・都会ではなかなか味わえない体験がここでは経験できるという魅力ある施設だと思う。では、北海道ではどうかと言ったら道の駅にはそこまでは必要ないと思う。
農産物がとても豊富であった。また、農産加工品も豊富で商品化するまで色々試行錯誤があったと思われる。

・売店には、地元農産物等だけでなく全国各地の食材・加工品も販売されていることから地域の方々が利用する「スーパー」的役割も果たしているように感じられた。

・上士幌町の地元野菜は夏期のみ、冬期はどうするか、フードコートも特別な物がなければお客さんは来ない。観光案内が入らなければ町内の宣伝にはならない。時間を掛け十分検討する必要がある。

・農産物販売については、上士幌は野菜農家さんが少なく、どれだけの対応が可能か課題である。また、加工品の開発が必要ではないか。

・本町の道の駅も施設建設は別として誰が管理運営をするかが大きな問題と考える。

・管理運営者には、経営感覚はもとより幅広い知識や多角的事業展開が求められている。

・本町の道の駅は、重要な機能だけを備えた最小限の設備でよいと考える。防災機能については、別に考慮する必要がある。
また、上士幌町を北の三股からぬかびら源泉郷、市街地、ナイタイ高原牧場、大雪山系を一つのエリアと考え、買う、食べる、遊ぶ、体験して身も心も癒してもらう。それを道の駅で情報発信していけばよい。

・今後の上士幌においては、国道２４１、２７３号の通行車両をどれだけ道の駅に引き止められるか。ナイタイ高原牧場、ぬかびら源泉郷とのアクセスを連動させるかが課題である。

・施設運営側の都合での事業運営では、先々負の遺産となる。利用者の目線での運営をどう構築かにかかってて る。

・いかに「美味しい食べもの」を提供できるかである。（牛肉など、農産品による地産地消の食のおもてなし）

・好感度な接客マナーでおもてなし

・各種イベントの企画（豊年まつり、町民祭り　etc)が重要。

・「買う」「食べる」「遊ぶ知る・体験する」「癒し」など、子育て家族やシルバー世代、女性グループなど幅広い世代、仲間での利用、滞在型にも配慮した事業内容・コンセプトを明確にして行くことが大切である。

・道の駅は、地元商店街へ誘導する役割も担うが、町民が日常的に地域コミュニティの場として親しみが持て、町内外の方々との交流の場となることが大切である。

とても目につく生産者の顔と名前の垂れ幕

農産物を吟味する議員

月日：１０月２６日
研修地：栃木県那須町「ゆいま～る那須」
研修内容：生涯活躍のまち（ＣＣＲＣ）の取り組みについて

対応：（株）コミュニティネット運営部　ハウス長　森　一　美　様

【　現　況　】　那須町は、栃木県の最北端に位置し、首都東京からは約１７０キロメートルにあり東京から仙台間の中間に位置している。那須連山と八溝の山並みに広がる町は、北西部に那須連山の主峰、茶臼岳がそびえ、今なお煙を吐き続けている。その南斜面には、１３８０年の歴史を持つ温泉があり、日光国立公園「那須温泉郷」として観光の名所となっている。山麓地帯には、別荘地やテーマーパークがあり高原地帯には、傾斜地を利用した酪農が続き、中央・東部地区には、水田地帯が広がっている。また、南東部の伊王野・芦野地区には源義経に始まり、俳人松尾芭蕉に至るまで多くの史跡があるほか林業・石材業の町として発展を続けている。

その那須町の雄大な自然の中に誕生した「ゆいま～る那須」は、（株）コミュティネットが建設、運営している５棟７０戸のサービス付き高齢者向け住宅である。ひとりで暮らす気楽さと自由、共に暮らす楽しさのある場所、豊かな自然環境に恵まれた広大な土地を利用し、環境共生型の暮らし空間を目指している。

１　費用（１人の場合）
（１）家賃　　一括前払い制　１,１７５万円～２,４８９万円
（２）共益費　　８，０００円／月
（３）サポート費　　３０，８５０円／月
（４）食費　　昼食５４０円、夕食７６０円　※予約制

２　入居状況
（１）入居者数　　７２名（うち二地域１２名）※地元から２名入居
　　男２０名、女５２名（２名居住１３組）
（２）入居率　　約９０％（目標は９５％）
（３）平均年齢　　７２．６歳

３　運営　９名によるシフト制

【　所感と本町のまちづくりへのヒント　】

・栃木県北部の那須町から人口減少や別荘地の空き家化などの課題の相談を受けたことをきっかけとする「ゆいまーる那須」は、ＪＲ東北新幹線「新白川駅」から車で約１５分の位置で、多くの方が入居する首都圏との交通の利便性に優れている。

・那須高原など那須地域は、すでに観光地、避暑・別荘地として有名であり、地の利が高いものと感じられた。

森ハウス長の説明を聞く議員

・第１期工事が平成２２年１１月に完了し開設されているが、それまでの間に現地見学会、施設づくりや生活設計などに向けた検討会、「どう生きるか、人生百年社会へ」フォーラムの開催など入居者募集、入居環境づくりに向けた参加型の周到な事前作業が進められている。

・施設建設、運営にあたり地元の那須町からの支援は全く受けていない。町との関係は町道の整備やデマンドタクシーの運行内容の要望ぐらいである。

・行政との関わりは一定程度あり、介護、福祉の面で話し合われているとの説明だったが、希薄な感じがした。本町内に計画される場合、行政のかかわり方が課題。また、一般町民生活との整合性や地域コミュニティのあり方の検討が必要。

・この住宅地が１つのコミュニティになっており、共用施設で文化活動が楽しめたり、移動販売や送迎車もあり、買い物や通院等も便利となっている。また、医療・介護の面でも、３６５日スタッフが常駐、地域の介護・医療をコーディネートしている。施設内にディサービスセンターが有り一体的に使用できる事は使用しやすいと感じた。

・入居にあたっては資金も必要であり、富裕層でなければ入居できないが、ケアが必要になった場合、介護などのサービスが受けられ安心して豊かな自然環境の中で老後を送れることを感じた。

・商店街や病院などのエリアから離れた地域にあるため、ワゴン車による送迎が定期運行され、自家用車がなくても生活できる利便が図られているが、気軽に出かけることができないといった不便さがあると思われる。一般町民との交流・コミュニティは希薄な感じを受けた。

・第２の人生として、元気なうちに移り住んで、趣味を活かして過ごす選択もあるといいと思うが、家賃の一括前払い額が１，１７５万円から２，４８９万円、月々の費用が月額４万円と高額収入や資産がなければ入居できない。年金暮らしの方など一般的には金額面で厳しい。また、平成２２年の開設から現在、平均年齢が７２．６歳とのこと、いつまでも元気で過ごせる環境にはあるが、今後、高齢化が進み課題も出てくるのではないかと感じた。

・人里離れた山の中で、町の商店街から遠く離れ、交通手段もない場所に７０戸もの住宅が円形に建てられ、一つの集落が出来上がっている。中央には小さな花壇や菜園が配置されていたが、このような狭さで満足できるのだろうか。また、１居住区が約１，０００万円から２，５００万円と高価なもので、かつ１５年間で償却されることには少し疑問を感じた。

・上士幌町はどのような建設計画を考えているのか、ゆいま～る那須は上士幌の高齢者と格差があり過ぎる気がする。人口が増えるのは良いが、現在生活している町民を町外に出さないことも考えるべきである。

・「元気なうちに第２の人生として移り住む」には、町全体が魅力的であること、その方々が必要とされる仕組み、また、町全体で連携のとれた総合的な福祉施策の充実が必要。

・医療、介護、生活支援サービス等シニアが安心して生活できる環境づくりの構築等、まず、町内の高齢者が住みやすい環境を考えていかなければ他の町からの移住は無い。

・国は、「人口増」を各自治体の施策で達成するように競わせているが、そもそも国全体の人口が減る中、一自治体の頑張りだけでは解決するものではない。国全体の少子化対策や雇用の在り方など根本的な解決も必要である。

木のぬくもりを感じる住宅が小高い丘に並ぶ

・（株）コミュニティネットが上士幌版ＣＣＲＣプロジェクトに取り組んでいるが、最初から「ゆいま～る那須」のような形は無理かと思う。上士幌が今、取り組んで実績のある移住・定住の延長線上にこの町に合ったＣＣＲＣを追及すべきであるということを認識させられた。

・生涯元気で活躍できる町上士幌を目指してるいるが、高齢ともなると少なくとも何処かの病を持っている。病気によっては上士幌クリニックで対応しきれるのか不安。（１０床のベッド数では足りない）

・上士幌には、独居老人が多いように思う。そういう方たちは公営住宅ではなく、高齢者住宅をもっと整備し、（サ高住ではなく）暮らしやすい環境、見守りやすい環境が必要。

・本町で実施している高齢者扶養施設の活用と併用して考えてはどうか。

・形を変えた高齢者扶養施設を模索してはどうか。

・分譲マンションの中にＣＣＲＣを取り込むのも考えの一つである。

・町内の空き家、公営住宅の再生等により安い料金で入居できる住宅環境整備が必要。

・小学校廃校後に集合住宅として整備してはどうか。

・本町で生涯活躍のまちづくりを進めるにあたっては町民理解が大きなカギとなると思われ、徹底した理解活動が必要と感じた。

中庭を囲むように住宅が建っている

月日：１０月２７日
研修地：千葉県千葉市「スマートコミュニティ稲毛」
研修内容：生涯活躍のまち（ＣＣＲＣ）の取り組みについて

対応：（株）スマートコミュニティ経営管理部　今　谷　利　男　様

【　現　況　】　千葉市は千葉県のほぼ中西部に位置し、東京都心へおよそ４０kmの地点にある。地形は、臨海部および各河川下流域に広がる平地と、周辺部の台地・谷津から構成される。郊外や臨海部を中心に大規模な住宅団地が多くある一方、若葉区、緑区には自然が多く残されており、森林や田畑の広がる豊かな農村地帯と住宅地が共存している。日本で１３番目に多くの人口を抱える市であり、市域には多くの国道や高速道路が集まり、また県内鉄道網の要となっている都市である。東京のベッドタウン的機能を持ちながらも、支店経済都市として東京だけに依存しない独自の経済圏を形成している。

　スマートコミュニティ稲毛は（株）スマートコミュニティが建設、運営している日本初のＣＣＲＣと言われている。高齢者・シニア向け新築分譲マンションとコミュニティ施設を併設し、医療・介護サービスも充実しており、アクティブな老後・セカンドライフを送ることができる施設となっている。

１　費用（１人の場合）

（１）分譲マンション	１，３２０万円～２，８００万円（4タイプ）
（２）入会金・施設利用権利金	約２００万円
（３）コミュニティサービス費	４２，８５８円／月
（４）食費（朝・夕）	４１，９０５円／月

２　入居状況

（１）入居者数　　７００名（目標1，０００名）

３　運営スタッフ　　１７０名

【　所感と本町のまちづくりへのヒント　】

・「スマートコミュニティ稲毛」は、コミュニティ施設（クラブハウス、グラウンド）と分譲マンションを一体施設として、高齢者が生きがいをもって楽しく暮らすことを目標に掲げた施設であり、クラブハウスは、商業施設（旧イトーヨーカドー）３階建て建物を改修したもので、直営レストラン（３店）とバーがある。また、図書や音楽鑑賞・カラオケの施設、ゴルフの練習コーナーなどがある。更に８０種類以上の各種文化・スポーツの教室、自主的なサークル・部活動なども開催されている。広々とし多目的に利用されているが、施設の維持管理には高額な経費が掛かっている。

壁にはサークルの案内が所狭しと並んでいる

・サークル等活動メニューは８０種類以上と極めて充実しており、元気な人は更に元気で活発に、そうでない方は行動力の増加とワクワク感に心身共に復活しそうだ。　趣味や活動を通じ多様な方と交流が進み充実した生活になると感じた。これこそ悠々自適な老後を過ごせそうな施設である。入居者も７００名と多く、多種多様な趣味の持ち主や多才な人と交われそう。しかし、なんといっても先立つものは、蓄えられた資金が必要である。

・食事は一流シェフが作る健康を第一優先に考えられた和食や洋食、すし等豊富なメニューが提供されている。

・マンションには２４時間体制のスタッフ、施設には日中看護師が常駐、３医療機関との連携がとれているなど、介護・医療体制も充実している。
都会ならではの、また、比較的お金に余裕のある方の選択肢としては、素晴らしいと思う。国や自治体レベルでこのような取組が進むきっかけになるとよい。お金のあるなしに関わらず、安心できる公的な住居が保障され、すぐ近くに生き甲斐を見出す取組があり、２４時間体制で医療・介護が保障される取組に向けて参考となった。

・旧ヨーカ堂跡を購入、行政から補助は受けていない、分譲マンションを購入して入居する、元気な内はそこから職場に行き高齢になるとそこから道路を挟んだ向かい側に食事。体を動かす.頭を使う。楽しく食べるクラブハウスに行く元気な人が元気であり続けるための仕組みを追求高齢者難民にならないための施設である。

・経費以外にも、マンションの管理費、固定資産税、光熱水費などもかかり、相当額の財産や収入（年金等）がなければ生活はできないと感じた。

年間行事のスナップ写真　みなさん楽しそう

・一言で表現するならば都市部に存在する夢のような豪華な「桃源郷」である。ただし、豊富な資金を必要とする富裕層をターゲットにした施設であると感じた。

・元気な内は良いが介護が必要になったら､他の介護事業所に頼まなければならない。

・病院や介護に関しても相談から紹介など充実しているように見受けた、ただ行政との関係は特別なく、完全な民間経営と感じた。

・入居希望者戸数の確保対策をどのようにするか十分な検討が必要である。

・上士幌の町を一つの施設、共同体と置き換え、今あるサークル活動等をより発展させ、加えて田舎暮らしを満喫できるのではないか。一軒家の広い敷地や、町の中にも大小の畑があり、借用したりして野菜や果樹を栽培するのもよい。高齢者住宅も市街地中心部に充実しつつある。
すでに特別養護老人ホームやクリニックもあり､医療･介護のケアも小さいながら完備している。

・あまりにかけ離れた構想と実態にこういった形もあるのだということを認識させられた。具体的に上士幌町のまちづくりへのヒントとしては思い描くことはできない。

・この施設は都心に近く施設の再利用など立地に利点が多く本町とは比較にならないが、健康寿命の延伸に向けた活動のサポートなどは行政の役割でもあり参考になった。
現在本町が計画している生涯活躍の町つくりに関してはまず町民の理解を進めることが第一と考える。更に民間と行政の役割を区分けして考える必要があると感じた重要な視察となった。

・本町内に計画される場合、行政のかかわり方が課題。また、一般町民生活との整合性や地域コミュニティのあり方の検討が必要。

・「健康であり続ける、地域のコミュニティの在り方、医療・介護の充実」などについては共感するものがあります。本来、国、自治体が中心に進めることですので、企業任せにせず、町民と一緒に取組こと期待します。